



国際数理科学協会会報

No.46/ 2006. 7

目次

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| * 2006 Bylaws 実施案 | * Distance Symposium について |
| * 2006 President Elect の選挙 | * 年会、研究集会 |
| * 2006 officers の選挙日程 | * 協賛研究集会 |
| * 新委員会の構成 | * 機関会員について |
| * 新設委員会と委員の依頼 | * 新任理事の信任投票 |
| | * 会員募集 |

* 2006 Bylaws 実施案

4月18日阪大中ノ島センターで行われましたBusiness Meetingで決まりました2006 Bylawsによる新委員会の設立、新役員の選任事務は下記の様に進行しています。

* 2006 President Elect の選挙

1. President Electの選挙日程や増員されるofficerの選挙は会報45号送付先のaddressが、年度の切り替わりの影響で大幅な変更が生じてきてきましたので、この郵送先の確認の為、会報45号、Notices May 2006の発送が大幅に遅れました。それで、会報45号に記載した日程を下記の様にずらして実施せざるを得ないこととなりました。この点御了承願います。

投票には(1)URL:<http://www.jams.or.jp> のHome pageを用いて、「ISMSとは」欄のInside the ISMS(Members only)の中の「Voting for President Elect」及び「Voting for officers」欄を用いる。

又「officersの推薦」には「Nominating of Candidates for officers」を用いるか、(2)又はe-mailを使ってpgp7j@jams.jp宛に投票、推薦して下さい。

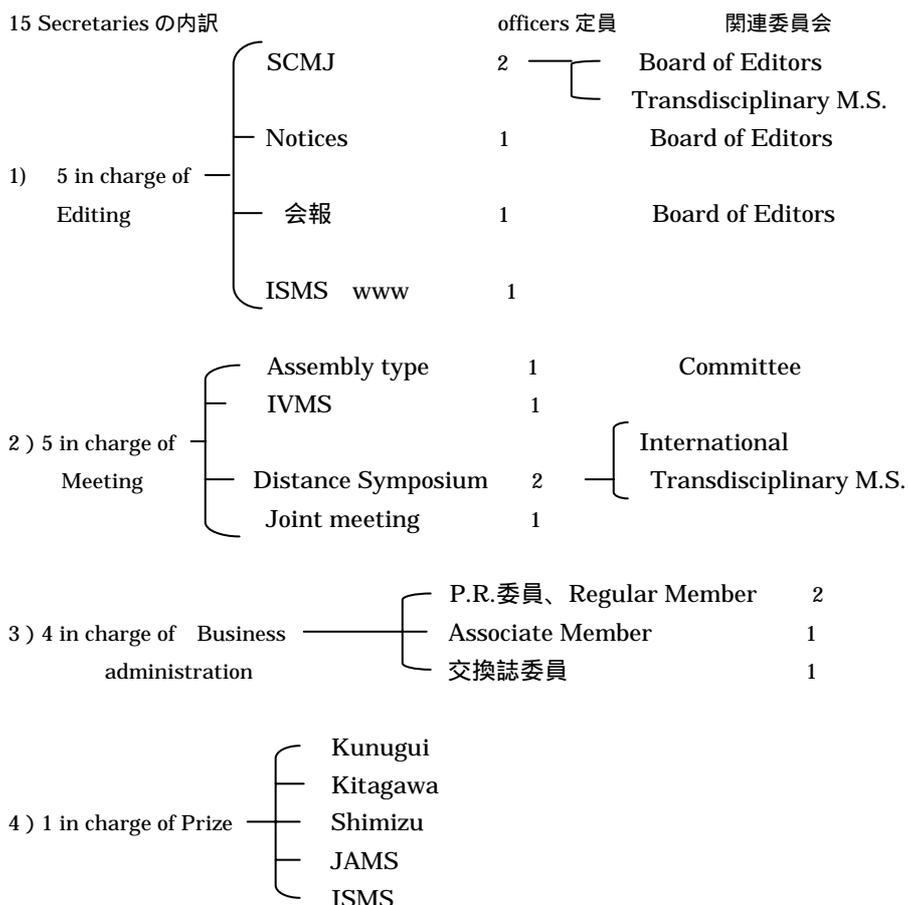
投票〆切は8月10日とし、President Electの任期を(経過措置として)2006年9月1日より2007年12月31日迄の1年4ヶ月とします。

* 2006 officers の選挙日程

会則第8条のSecretariesの増員分について、選挙を次の日程で行います。

- (1) 会員2名以上の方による候補の推薦を受け付けます(〆切7月20日)
- (2) 7月22日wwwによる候補の公示と投票の開始。(投票〆切8月10日)
- (3) secretary15名の任期は現secretaryを含む7名は2007年12月31日、残り8名は2008年6月30日とします。(半舷上陸)

***新委員会の構成**



日程： 7月20日 推薦〆切 7月22日 選挙告示 8月10日 投票〆切
 8月12日 投票結果掲載 9月1日 任期始め 9月10日 会報47号に告示

***新設委員会と委員の依頼**

[1] Prize Nominating Committee

- (1) Kunugui Prize: A.V.Arhangel'skii (Ohio Univ.), J.B.Conway (Texas Univ.), N.Brunner (Univ. Bodenkultur) (交渉中)
- (2) Kitagawa Prize: A.Salomaa (Finland), P.K.Sen (Univ. North Carol.), L.M.Ricciardi (Italy), K.Szajowski (Wroclaw Univ. Tech.)

猶、旧賞のShimizu Prize Committee 委員, JAMS Prize委員(井関清志、中西シズ、坂口実、佐藤優子、長尾壽夫)は存続する。

[2] Editorial Board of Notices

- L.M.Sanchez Ruiz (Spain), A.Brams (U.S.A), K.Denecke (Germany), A.SenGupta (India), I.A.Rus (Romania), A.T.Lau (Canada), W.W.Comfort (U.S.A), A.Favini (Italy), D.Przeworska-Rolewicz (Poland), K.Szajowski (Poland), T.Nishiura (U.S.A), S.S.Kutateladze (Russia), J.D.Monk (U.S.A), M.Vlach (Czech/日本).

[3]「国際数理学協会会報」編集委員会

八杉満利子(京産大)、木下佳樹(産総研)、服部泰直(島根大)、山田耕三(静岡大)、
渚勝(千葉大)、井関清志、岳五一(甲南大学)、谷口正信(早大学)、長尾壽夫、石原忠重、
高橋渉、寺岡義伸、安井義和、中西シズ、藤井正俊、藤井淳一、宮本勝浩、西田俊夫
[4]国際研究集会委員会(International Joint Meeting Committee)

八木厚志、渚勝、岳五一、中西シズ、長田潤一、井関清志、Mazalov, Szajowski, Rus、
長尾壽夫、栗木進二、石原忠重、石井博昭、谷口正信、Milan Vlach、毛利進太郎
[5]Board of Business Administration(機関会員推進、交換誌処理、PR.活動(正会員等))

長尾壽夫、西田俊夫、田中秀典(大教大)、植松康祐、S.Kutateladze、A.SenGupta、
岳五一、石井博明

[6] Transdisciplinary Mathematical Sciences 委員会

有田清三郎、猪原正守、茨木俊秀、石井博昭、石原忠重、稲垣宣生、宇佐美好文、
Wuyi Yue、木下佳樹、木村宏、佐藤優子、佐藤俊輔、高橋渉、谷口正信、田畑吉雄、
寺岡義伸、渚勝、西田俊夫、宮本勝浩、韓尚秀、室津義定、八木厚志、吉田裕亮、
米山寛二、中桐信一、樋口保成、高橋浩光、溝畑晃、内藤裕義、文字信貴、田川正二郎、
八木孝司、奥田昌宏

[7] 参集型集会(年会)運営委員会

石井博昭、藤井正俊、栗木進二

[8] SCMJ 編集委員会

* 新任理事の信任投票

2005年7月発行の会報No.40でBylaws 2005による理事が選ばれ

国内(4名) 中西シズ、長田潤一、坂口実、谷口正信;

海外(6名) Alexander V.Arhangerskii (U.S.A)、Angelo Favini (Italy)、Vladimir Mazalov (Russia)、
Gerhard Preuss (Germany)、Ioan A. Rus (Romania)、Wuyi Yue (China)

の方が決まっています。Bylaws 2006による理事数は、執行役員15名以外の海外理事10名、国内理事8名と
なっていますので海外理事4名国内理事4名の新たな増員を必要とします。Bylaws 2006では、執行役員会
が推薦し会員の信任投票で決定することになっています。今回は7月22日新officers候補の決定の後に、理
事候補を推薦し、信任投票を御願ひする事とします。

* Distance Symposium について

渚勝

(1) SOBAの homepage <http://www.soba-project.com/> にアクセスし、ユーザ登録を行う(Fig.1)。

(2) SOBAのダウンロードを行う。SOBAより、登録された旨、メールがある。という作業が必要です。このシス
テムで使える連絡手段はチャット(キーボードを用いての会話)、画像、音声、ソフトウェア画面の共有(パワー
ポイント、ワード、アクロバットリーダーなど)ですので、カメラ画像やマイクが必須ということではありません。実
際の操作に沿って説明を続けます。

(3) SOBAにloginしてセッション一覧を見てください(Fig2)。仲間のセッションを捜して参加をクリックする。仲
間のセッションがない場合はセッション作成をする必要があります。

(4) セッション作成を行うと「SOBA が起動中」の文言が出て少し時間がたってブルーの画面が現れる(Fig.3)。
この画面が Fig.2 の下に隠れることもあるのでご注意ください。Fig.4 は会議中の一コマです。上段に参加
者の画像が出ますが画像が必要ということではありません。右の方はチャットの画面です。左真中が共有画面
です。

(5) 上と同時に、カメラのある人は自分の画像が見え、その下のボタンを click すれば音声を通じるようになり
ます。ウィンドウズの音が聞こえれば、会話の音声は聞くことができます。マイクがあれば(コントロールパネル
で設定)会話が成立します。



Fig. 1

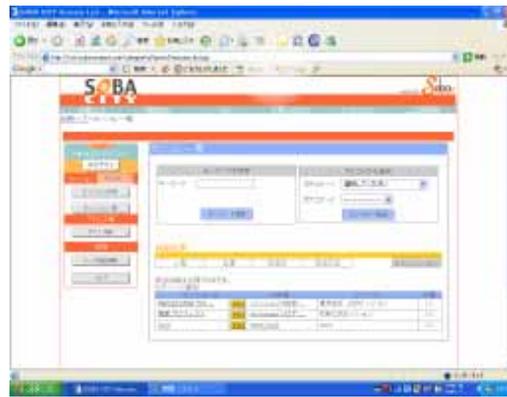


Fig.2

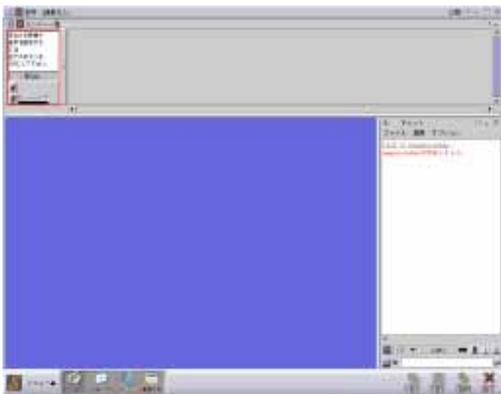


Fig. 3

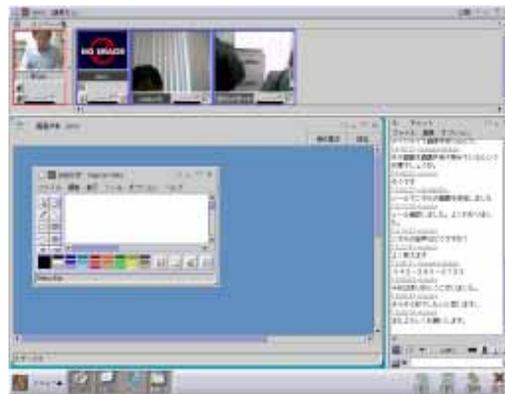


Fig.4

例えば下の「画面共有」等を click して互いに論文等を見て通信ができます。

(6)カメラは Web Camera(¥3,000~¥10,000)を使う。また Digital Video Camera を使い screen 上の画像等を静止画として映し、送ることは可能です。(解像度の高い連続画像は画面が流れるので、静止画か Web Camera 程度の精度が良い。)

(7)Projector を使って screen 上に display を映し出せます(研究集会、会議向け)。

(8)協会では、テレビ会議をメンバー限定で行います。会議の参加を希望される方は、メンバー登録をしますので、7月27日迄にログイン名を pgp6j@jams.jp にお送りください。

(9)このシステムの用途は

(A)研究グループの研究集会に近くの site に(又は自分のパソコンから)参加して頂く、

(B)委員会などの会議に、近くの site に(又は自分のパソコンから)参加して頂く、の2つです。この為、テストを重ね、一応のノウハウを得ました。次回は8月5日(土)に、研究集会のテストを行います。各研究集会、又会員の方々のテストへの参加を歓迎します。研究 group 名、代表者名を7月27日(木)迄に pgp6j@jams.jp 宛連絡してください。

(10)テレビ会議を行う際連絡等必要が生じることがありますので、必ず電話番号を事務局(仮議長局)迄連絡しておくようにして下さい。

*年会、研究集会

(1)国際数理科学協会平成18年度年会 2006年8月17日(木)、阪大工学部吹田キャンパス。

(2)詳細はwebの**研究集会の数理科学協会年会の欄**を見てください。

第17回 ALGI(代数, 論理, 幾何と情報科学研究集会)を下記の日程、場所で行います。

2006年10月12日(木)~13日(金)

奈良女子大学理学部会議室

講演募集をいたします。ご検討頂ければ幸いです。講演を希望される方は、高井 (t-takai@aist.go.jp) まで情報をお寄せください。題目、講演者名とe-mail address, 所属、梗概、希望時間、講演に必要な道具などが記されていればありがたい。「講演したいと思っている」程度の不完全情報でも結構です。

この会議 ALGI (Algebra, Logic, Geometry and Informatics) は、年一回程度の頻度で開催している研究会です。ALGI の趣旨や過去の集会の情報がホームページ

<http://sakura.math.kyushu-u.ac.jp/algi/>

にありますので、参考までに御覧ください。今回の ALGI は、国際数理科学協会の研究部会として、奈良女子大学の鴨先生のお力をおかりして開催するものです。

会場へのアクセスについては、

<http://www.nara-wu.ac.jp/access.html>

<http://www.nara-wu.ac.jp/campus.html>

をご覧ください。理学部管理棟と書かれている建物の 1 階にあります。近鉄奈良駅からだと、南門から入ってすぐになります。皆様のご参加をお待ちしています。

* 協賛研究集会

(1)「第三回システム検証の科学技術シンポジウム」

日時	平成18年10月30日(月)31日(火)11月1日(水)
場所	千里ライフサイエンスセンタービル(千里中央駅すぐ)
主催	科学技術振興機構、産業技術総合研究所システム検証研究センター

開催趣意書

情報処理システムの動作検証は、システムのディペンダビリティを向上させ、また開発の生産性を上げるための基本技術として、その重要性が広く認識されております。システム検証研究センターは、平成16年2月に第一回、平成17年10月に第二回のシステム検証の科学技術シンポジウムを開催し、システム検証の科学技術に関する活発な研究交流を行いました。予稿集は算譜科学研究速報として発行し、その成果の一部はコンピュータソフトウェア誌特集号に掲載されています。

(<http://unit.aist.go.jp/cvs/symposium/sympo-top.html>)

このたび下記の要領で第三回のシンポジウムを開催することと致しました。

システム検証の二つの代表的なアプローチである数理的技法(formal methods)とテスト技法、数理的技法の対象となる数理的モデルを提供するプログラミング意味論、システム開発への品質保証の導入、検証技術の企業におけるシステム開発への適用事例をはじめとする関係各方面における第一線の研究発表をお寄せいただき、この分野の現状を明らかにできればと存じます。

キーワード	ディペンダビリティ、機能安全、セキュリティ、生産性、数理的技法(formal methods)、モデル検査、定理証明、プログラミング意味論、書換系、テスト技法、品質保証、ソフトウェア開発方法論、検証手法の導入事例研究
-------	--

(2)The 7th International Conference on Optimization: Techniques and Applications(ICOTA)

記事文案

ICOTA7 (「第7回最適化の手法と応用に関する国際会議」)の開催と論文募集について

国際数理科学協会が協賛(後援)するThe 7th International Conference on Optimization: Techniques and

Applications (ICOTA7, 日本語名「第7回最適化の手法と応用に関する国際会議」)が、2007年12月12日～15日の4日間、神戸国際会議場(神戸市中央区)にて開催されます。本国際会議は、最適化の手法と応用に関する最新の研究成果を発表するとともに、各々のアイデアを交換することによって研究開発の新しい道を見出し、さらに最適化に関連する現実の諸問題に対して様々な経験を共有するための国際フォーラムを提供することを目的としています。本国際会議では、2007年8月1日〆切で発表論文を募集しております。

詳しくは、<http://www.iict.konan-u.ac.jp/ICOTA7/> をご覧ください。国際会議の開催及び論文投稿概要

- 1) 開催行事: The 7th International Conference on Optimization: Techniques and Applications (ICOTA7)、日本語名「第7回最適化の手法と応用に関する国際会議」
- 2) 開催日時: 2007年12月12日～15日の4日間
- 3) 開催場所: 神戸国際会議場(神戸市中央区)
- 4) 主催団体名: The Pacific Optimization Research Activity Group (POP)、甲南大学知的情報通信研究所
- 5) 開催目的
ICOTAの目的は、研究者やソフトウェア開発技術者らが最適化の手法と応用に関する最新の研究成果を発表するとともに、各々のアイデアを交換することによって研究開発の新しい道を見出し、さらに最適化に関連する現実の諸問題に対して様々な経験を共有するための国際フォーラムを提供することにある。過去のICOTAにはアジア地区だけでなく世界各国からトップクラスの研究者が多数参加しており、特にアジア太平洋地域の最適化研究の発展に多大な貢献をしてきた。前回オーストラリアで開催されたICOTA6において、今回はこの地域における最適化研究の中心である日本で開催してほしいという強い希望があったことから、ICOTA7の開催地は日本となることが決定した。7回のICOTAの歴史において初めて日本で開催される今回の会議は国際的に大きな注目を集めており、これまで以上の成果が期待できる。
- 6) 討議題目
プレナリー講演6件を含む、200件以上の講演(口頭発表およびポスター発表)で、3日間にわたって議論を行う。募集する講演の内容は次のように、最適化に関する広範な分野に関係している。
最適化理論、数値計算アルゴリズム、線形計画、整数計画、非線形計画、動的計画、ネットワーク最適化、最適制御、最適化理論と数値的最適化アルゴリズムを含む応用、アルゴリズムの設計、分析、実装。伝統的な数理計画法だけでなく、組み合わせ・連続変数の最適化におけるメタヒューリスティクス、非線形システム、制御、大規模データベースからのデータマイニング、テキストマイニング、知的情報技術、システム科学、知識工学、情報通信ネットワーク技術、生産工学、エンジニアリング最適化、金融工学、大域的最適化、非平滑解析、最適制御と動的最適化、オペレーションズリサーチ、半無限計画、半正定値計画、多目的最適化(アルゴリズムと応用)、確率システムと最適化
- 7) 協賛・後援団体名(予定を含む): MEET IN KOBE 21、中内力コンベンション振興財団、電気学会 電子・情報・システム部門、国際数理科学協会、日本建築学会、土木学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本航空宇宙学会、計測自動制御学会、システム制御情報学会、日本OR学会、中国OR学会、香港OR学会、オーストラリアOR学会、The American Institute of Mathematical Sciences など(順不同)
- 8) 論文募集概要: Extended abstract もしくは full paper で投稿、投稿〆切: 2007年8月1日、採否通知: 2007年9月20日、詳しくは<http://www.iict.konan-u.ac.jp/ICOTA7/> を参照
- 9) 問合せ先: 〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1、甲南大学 知的情報通信研究所 所長 岳 五一
電話 078-431-4341 Fax 078-435-2540
e-mail: ICOTA7@iict.konan-u.ac.jp、URL: <http://www.iict.konan-u.ac.jp/ICOTA7/>

Application for Institutional Member of ISMS

大学、研究所等が協会から SCMJ 誌の直接購買をする機関会員制度について、2006 年より、各機関会員に所属の研究者 2 名を会費無料で準会員として登録してすると、準会員が SCMJ に accept された論文を掲載するときの page charge (別刷代金) は会員と同額とすることにしました。

機関会員が online SCMJ の購買をしない場合は、準会員は SCMJ を閲覧する password は貰えず (著者であれば著者として自分の論文の閲覧はできますが) 会員並の閲覧は出来ませんが、page charge(別刷代金)は会員と同額です。

この新しい制度の機関会員の P.R.を、日本国内外 (BRICS 諸国など) 400 大学に向けて、2006 年 1 月から始めています。同時に今迄の SCMJ 投稿者で会員でない方、また、個人会員および (機関会員の) 準会員加入の P.R.も始めています。

両者の P.R.について会員の御支援 (P.R 先大学の教員の方の名前ご連絡頂く) を御願います次第です。

なお大学系の機関会員入会の Form は次のものです。

Subscription of SCMJ Check one of the two.	Print (US\$300)	Print + Online (US\$420)
University (Institution)		
Department		
Postal Address where SCMJ should be sent.		
E-mail address		
Person in charge	Name: Signature:	
Payment Check one of the two.	Bank transfer	Credit Card (Visa, Master)
Name of Associate Members	1.	
	2.	

ISMS (JAMSの継続) 会員募集

ISMSの出版物: ISMSは、創刊より約60年、国際的に高い評価を得ている *Mathematica Japonica* (M.J.)と、その姉妹誌で電子 *Journal* と *Paper* 誌とを持つ、*Scientiae Mathematicae* (SCM) とを発行してきました。両誌は合併して、“21世紀MJ/SCM New Series, *Scientiae Mathematicae Japonicae* (SCMJ)”として、電子版は2000年9月より発行してきました。印刷版は、1978年1月より、年間6冊、700~1200頁を出版しています。全体として230巻を超える、日本で最大量を誇る数理科学の雑誌です。その特長は、下の1)~7)です。

- 1) Editorial Boardには、国内だけでなく、海外15カ国の著名な研究者40名が参加している。
- 2) 世界のresearch groupに論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editorを窓口として直接論文を投稿できて、迅速なreferee及び出版が得られる。
- 4) 有名な数理科学者のoriginal paperや、研究に役立つsurveyが、毎号載せられている。
- 5) SCMJは、世界の有名数理科学者による、極めて興味あるexpository paperを、毎号International Plaza欄に掲載している。世界各国の図書館へ、広く配布されている。
- 6) 投稿論文は、accept後(又は組版後)待ち時間0で発行されます。
- 7) *Mathematical Review*, *Zentralblatt* にfrom cover to cover でreviewされている。

ISMSの研究集会: (1)研究仲間がゆっくり時間をかけて発表、討論をする、特色ある参集型研究集会が毎年行われ、非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。(2)ISMSには内外の著名な研究者が多数入っており、近いうちに内外を結ぶ高いlevelの研究集会がonlineで行われる事を期待している。(本誌45号 3p 及びNotices March 2006 9p を御参照下さい)

ISMSの学術賞: 会員の優れた論文を広く世界に紹介し、更なる研究を奨励するために、ISMS賞およびJAMS賞を設ける。

(詳しくは本誌45号2p会則13条を御参照下さい)

< ISMSの会員の特典 > 1. SCMJ電子版の購読 (print outも含む) 無料。2. SCMJ print版の少額での購読 (下表1)。

3. Page chargeのdiscount (下表2)。

< 機関購読会員の特典 > 1. 機関内の2名の方を準会員として会費無料で登録することが出来る。2. 準会員は会員と同じpage chargeのdiscountを受けることが出来る。

表1 [雑誌購読費]

	正会員 (1年)	正会員 (3年)	機関購読会員	定価
Print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500* US\$ 55, €44	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320
Online	Free	Free		
On-line+print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500 US\$ 55, €44	¥ 45,000 US\$ 420, €336	¥ 57,000 US\$ 520, €416

*3年会員のみ、雑誌購読費3年前払いの場合は¥15,000になります。

著者の方には、SCMJを1冊送料込みで1,200円またはUS\$12で購読できます。

表2 [ページチャージ]

	Member/Associate Member	Non Member
Paper : P	¥3,850 (US\$ 35, €28)	¥ 4,450 (US\$ 43, €35)
Tex : T	¥ 2,200 (US\$ 18, €14)	¥ 2,800 (US\$ 26, €21)
Js : Js	¥ 1,100 (US\$ 8, €7)	¥ 1,700 (US\$ 16, €13)

表3 [今年の会費]

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度A会員	¥7,000	US\$ 50, €40	US\$ 30, €24
3年A会員	¥18,000	US\$ 120, €96	US\$ 70, €56
単年度S会員	¥3,500	US\$ 30, €24	US\$ 20, €16
3年S会員	¥9,000	US\$ 70, €56	US\$ 50, €40
生涯会員**	¥70,000	US\$ 600, €480	US\$ 500, €400

**過去10年以上、正会員であった方に限る

但し、A会員は正会員を指し、S会員は、学生会員と高齢会員(70歳以上)を指します。

国際数理科学協会

International Society for Mathematical Sciences

〒590-0075 堺市南花田口町2-1-18 新堺東ビル内

Tel: (072)222-1850 / Fax: (072) 222-7987 URL: <http://www.jams.or.jp>